

令和2年度甲賀市スポーツ推進審議会 概要報告

1. 開催日時 令和3年2月16日（火）午後7時30分から午後9時10分まで
2. 開催場所 甲賀市役所 4階 402会議室
3. 議 題
 - *報告事項
 - ・スポーツ推進計画について
 - *協議事項
 - ・スポーツ推進計画の進捗状況について
4. 公開又は非公開の別 公開
5. 出席者 委 員 小澤委員、山崎委員、富田委員、原田委員、雲林院委員、
倉谷委員、永井委員、中山委員、藤田委員、村上委員
以上10名
事務局 西村教育長、教育委員会事務局奥田理事
社会教育スポーツ課 杉本課長、田中参事、藤谷係長
6. 傍聴者数 0人
7. 会議資料
 - ・甲賀市スポーツ推進計画
 - ・協議資料 甲賀市スポーツ推進計画の進捗状況について
 - ・スポーツ施設再開ガイドライン

8. 議事の概要

○出席委員数の報告

審議会委員12名のうち、出席委員が10名であることから、甲賀市スポーツ推進審議会条例第5条第2項の規定により、会議が成立していることを事務局から報告。

○副会長の選出

委員の互選により、会長一任と決した。会長から事務局から提案するよう指示があり、前任者の所属団体であるスポーツ推進委員会から選出の山崎委員を事務局から提案し、承認された。

○スポーツ推進計画について

会 長 事務局から報告いただきましたスポーツ推進計画は、前委員の中で、東京オリンピック、パラリンピック、また、国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会等について、時代の中で必要な事項を新たに付け加えたり、文言であるとか表現であるとか、誰が見てもわかりやすいよう修正したり、かなり時間をかけて審議してきたものをまとめさせてもらったということで、すべてを説明していただくと時間がかかるんですけども、特

に何かございましたらお願いします。

*特に意見なし

○スポーツ推進計画の進捗状況について

会 長 今、事務局から説明していただきました甲賀市スポーツ推進計画には基本方針が5つありますが、各基本方針に対しての予算や実際の事業を分かりやすい形でA3判の協議資料にまとめていただきました。コロナ禍で実施できなかった事業が多かったということですが、委員の皆様がそれぞれの立場でかかわられたところで、ご質問やご意見があれば、お願いしたいと思います。

委 員 甲賀市スポーツ推進委員の立場から申し上げます。資料の記載内容がすべてですが、新型コロナという今までない状況の中で、スポーツ推進委員として、「ふれあいゆるスポフェスティバル」という一つの大きなイベントを開催させていただきました。ウィズコロナということを見据えながら、今後、スポーツ活動を途絶えることなく、安全に進めていくということを念頭に活動を続けています。また、市民からの派遣依頼等につきましても、感染予防は当然ですが、安全を確認しながら止めることなく進めています。委員の皆さま方がそれぞれの立場の中で、今後どういう形で事業を進めようとしているのか、中止や縮小といった微妙なところを含め、情報として教えていただければ、それを参考にして全体の動きの中で、計画や活動を進めていけるとと思いますので、その点について教えていただきたいと思います。

会 長 スポーツ協会では、主な事業が3つあります。市民球技大会については、23の加盟団体にそれぞれの競技で球技大会をしていただいています。市民球技大会は年度の前半で、緊急事態宣言によりほとんどのイベントが中止される状況でした。国と県と市の考え方をお聞きし、実施できる状況ではないということで、ほぼ中止になりました。次に、市民体育大会は10月3日だったと思いますが、ちょうどGOTOEATなどが始まり、活動再開という風潮になってきたことから、検討を重ねた結果、開催させていただきました。まだまだ、慎重な判断から行事を中止されることが多い中、開催しましたところ、非常に喜んでいただき、小中学校や高校からもたくさん参加していただき、「貴重な活動の機会となり、ありがたかった。」というお声をいただきました。最後に、1月開催予定であった市民駅伝については、第2波、第3波の中となり、首都圏や近畿圏の緊急事態宣言の中、ガイドラインを踏まえ、ぎりぎりまで考えましたが、県や市のご意向もお伺いして中止しました。それぞれの種目により、専門性を踏まえたガイドラインが整理されてきていますが、甲賀市スポーツ協会としては市の考え方を踏まえ、中止、延期、実施という形で判断させていただきました。

委 員 スポーツ少年団では、コロナ禍の中ですが、秋の大会では公式戦を行うことができました。県大会もされましたが、そのチームの保護者のみがマスク着用、声援なし、拍手のみで観覧でき、人数制限も行う形であったと聞いています。甲賀市、湖南市のブロックの試合については、感染リスクから新人戦の県大会が直前で中止となり、ブロックでの予選も中止させていただきました。6年生はほぼ試合もできず、この1年間が終わってしまい、保護者の方も非常に残念だったと思います。小学生なので、スポーツする時はマスクを外しますし、保護者の方も声援に熱が入り、試合が始まるとどうしても声援

が飛び交うようになってしまいます。「拍手のみでお願いしたい。」ということは、競技中にも話をさせていただきましたが、「言葉なしで」ということはすごく難しいと感じました。試合もさせてあげたいし、保護者の方にも見ていただきたいし、子どもたちと保護者の方がどのようにコロナとつきあえるのか悩んでいます。中学校や高校では無観客でされていましたが、小学生の場合は保護者に送迎などのお世話をさせていただかないと役員だけでは賄いきれないところがあり、そういう意味でも今年は大変な年だったと思います。今後、小規模な形でも大会をしたいと考えており、コロナを踏まえた工夫や対応について教えていただきたいと思います。

会長 無観客と簡単に言いますが、保護者が子どもたちの試合を応援したいのは当然ですし、送迎のこともあります。しかし、その部分をルール化され、守っていただいたということは、これからのイベントの中で必要なことだと思いますし、「ルールを守らないとできない。」と保護者の方に感じていただくことも大切だと思います。子どもたちのマスクのことや、更衣室でのこと、大きな声での応援など、1つひとつのことに丁寧に取り組まれたことがよくわかります。本日の資料として、施設のガイドラインを配付いただいています。こういうルールをつくっていくことが、イベントをしていくうえで重要であると思います。

委員 総合型地域スポーツクラブは、ほかの団体と違い、自主財源で運営していますので、活動を中止すれば、その分、会費に影響が出るため、それぞれのクラブが非常に悩んだ1年でした。年度当初は、中々活動ができませんでしたが、「手洗い、消毒、検温などをしながら、教室だけを開こう。」というところから、徐々に活動を再開しました。大会についても、屋外で行うグラウンド・ゴルフなどは開催しましたが、当クラブの場合、非常に苦労しました。まだ、会費等のことが翌年度にも影響してくると考えており、そこがほかの団体との違いであり、課題であると思います。

委員 ゆうゆう甲賀クラブで取り組んでいるスポーツは、ほとんどがグラウンド・ゴルフです。地域ごとに小さな規模でやっておりますが、市としての大会はできませんでした。グラウンド・ゴルフ協会では大会をされているようですが、直接かかわっていないため、詳細は分かりません。新型コロナに感染すると、高齢者は重症化するリスクが高いため、慎重に予防しながら活動していますが、常設のコースなどで密になっていることもあるように見受けられますし、心配もしています。これからどのようにコロナが収束するのか分かりませんが、十分に気を付けながら活動を継続したいと思っています。グラウンド・ゴルフは続けていきたいし、大きな大会もやりたいという思いもありますので、そうした情報を教えていただけるとありがたいと思います。

会長 80歳以上の大会を開催され、全国でも注目されたとスポーツ協会でも報告を受けました。コロナ禍の中、明るいニュースであったと思います。

委員 障がい者スポーツについてですが、滋賀県障がい者スポーツ協会では、今年度事業の中止が非常に多くなりました。また、鹿児島県の全国障害者スポーツ大会の中止や茨城県の全国大会の台風による中止などもあり、2年間、全国大会がなくなってしまったことで、選手のモチベーションを維持するのが非常に大変でした。「いい方向で考えれば、選手の発掘育成強化期間が1年間伸びたということだ。」というようなことを言いながら、何とかモチベーションを保っていただくよう取り組んでいます。障がい者の場合、

1人でやるというのが困難なケースが多くあり、そういった部分を支援いただくボランティアの方がいなければ、アスリートとしても、また楽しむスポーツとしても、継続していくことが困難です。今年、オリンピック、パラリンピックの年であり、ホストタウン事業にも取り組んでいただいています。ボッチャという競技は、スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブなど、いろんな方面で普及活動を実施いただいていると思いますが、本来の選手の発掘、育成、評価ということになると、対象者は非常に重度の方になります。滋賀県の選手選考会とは、記録会という形で実施しましたが、一人で行動できず、24時間支援がいるという方もおられます。甲賀市でも、重度の方へのサポートということに取り組んでいただきたいと思います。障がい者スポーツ協会では、競技の技術指導はできても、日常的なサポートといったことへの知識がなく、中々できません。甲賀市に限らず、他市町でも同じ状況であると思いますが、そういった支援体制を構築いただきたいと思います。競技スポーツと楽しむスポーツという二面性を持って取り組んでいますが、選手の発掘は困難で、特に身体障がい者の方の高齢化が進んでいます。障がい者の方は、日常的にどこにでもおられますが、その方に活動に入っていただくことは非常に困難です。障がい者特別学級の児童生徒や一般企業におられる障がい者の方にもスポーツの楽しさや競技スポーツの感動を伝えたいと思いますので、それぞれの場面で声掛けをしていただければと思います。障がいの程度からスポーツは無理だと決めつけず、「何かできる。」という見方で、体験につなげていただくようなご支援ということも、ここにおられるスポーツ関係者の皆さまに、ぜひともご協力願いたいと思います。コロナの対策でいろいろ苦勞されているとお伺いしましたが、私が所属している卓球団体では、日本卓球協会のガイドライン、滋賀県のガイドライン、甲賀市のガイドラインを守りながら、密にならないように、運営していくというやり方をしています。例えば、小中学生以下の方は、学校ごとに案内し、朝から午後2時ごろまでで終えるような体制をとり、保護者の方には2階で観覧いただくというような形で、今のところ何とか運営できています。3月中旬からはコロナのワクチン接種で体育館が使用できないということも聞いていますので、その点については、代替えの施設が使用できるように支援をお願いします。

会長 ありがとうございます。事業内容として、今のようなことを資料に加えるというようなことについてはいかがですか。

委員 事業内容については、障がいスポーツの「③ホストタウン事業」の事業内容の中で、県主催のスポーツ大会に挙がっている「スペシャルスポーツカーニバル」という事業は、来年度以降、「スポーツひろば」という形にしようと思っています。県内を回って地域で楽しくスポーツしていただく中で、選手の発掘と、地域の障がい者スポーツの楽しみのできる場所の提供を目的に変更したいと考えており、「スペシャルスポーツカーニバル」は「スポーツひろば」という形に変わるので、お知らせさせていただきます。また、今年、三重の大会から正式競技となりますボッチャを加えていただきたいと思います。

会長 事務局の方で追加等をよろしくをお願いします。

委員 中学校では部活動のことがメインになりますが、今年度を振り返りますと4月5月が臨時休業となり、その時点で夏の全国大会が中止になりました。県内では、5月の春の大会、夏休みに入ってすぐの夏の大会、新人戦になります10月に入っての秋の大会と

3つ大きな大会がありますが、臨時休業中のため春の大会は中止でした。一番悩んだのは7月の大会ですが、全国大会が中止になったことで、近畿大会も中止となり、実施されるとしても県大会だけという状況でした。6月から学校が始まり、子どもたちも部活動をやっていない状態でしたが、3年生にとっては最後の大会なので、やらせてあげたいという思いもありました。しかし、甲賀市内でもクラスターが発生した時期でしたので、結局は、3年生の交流試合という形での実施となりました。無観客で、勝負よりも取り組んできた部活動の最後の締めくくりの試合をさせてあげようという本当の交流の試合です。それから、10月はコロナが少し落ち着いてきたころで、県大会も含めて実施するのか悩みましたが、勝敗を決めるということになると子どもたちも熱くなりすぎ、まだまだ感染対策を取らないといけない時期でしたので、会場には3時間程度いるような日程で、観客は無観客でというルールで、県内統一して実施しました。県大会といってもブロック内の試合で、1日で終わるため、何とか実施できました。ただ、無観客ということは非常に難しく、競技によってもかなり違いがあります。配慮の仕方が違いますし、体育館での種目と外でのサッカーや野球の試合では、無観客にする必要性に違いがあると思います。学校のグラウンドですと無観客と決めていても見ておられる方もありましたが、体育館ですと入口で締め切ることができます。このように、競技によって対応が異なってくると思います。今悩んでいるのは、来年度同じような形で実施するのかということです。活動の場を設けてやりたいので、大会についてはすごく悩んでいます。ガイドラインなどで、収容率50%以下という記載を見ますが、学校の体育館の収容率については、フロアの収容人数や参観者数の考え方について悩んでいます。学校では、地域の方が気を付けておられるのに比べると、普段密になっていると思います。部活動も6月から再開しています。始めるときに消毒し、終わってからも消毒しますが、競技によっては接触することもあります。小学校は、遊び時間もドッジボールしないとかサッカーしないとか、ルール化されていますが、中学校は、柔道や剣道など一部は制限がありますが、部活動が始まった時点から色々な競技を実施しています。このような状況で、来年度どのように大会運営すべきか悩んでいるところです。

委員 小学校でも昨年3月から5月までは休業になりましたので、子どもたちの体力がかなり低下することを危惧しており、再開してみたら実際にそうでした。ただ、遅れた分を取り返すための授業時数を確保の優先順位としては、体育が後回しにされてしまうのと、体育の場面では密になりやすいという課題もありました。球技ではみんながボールを奪い合うことから、休み時間のボール遊びや、鉄棒なども含め、協議を重ねましたが、させられない部分が多かったです。そのような中、「からだづくり運動やからだほぐし運動から入っていこう。」ということで再開しましたが、充実した活動ができませんでした。また、例年、6月中旬から7月は水泳をしますが、プールの更衣場面やプールサイドでの時間は感染リスクが避けられないということで、プールの活動はしませんでした。当然、水泳記録会や水泳教室も実施していません。資料の中に、「授業内容の充実と体力の向上」とあります。県や市でテーマを設け、授業研究会体育主任中心に取り組んでいるものですが、例えば、学校内でも他の者の授業を見に行き行って学ぼうという機会があっても、自分のクラスを自習にしてまでいけないとか、全校が教室とかに集まったら密になるとかいった理由で、昨年のような授業研究会や他校に出張するようなことはでき

ませんでした。研究会も参加者が少ない中での実施となり、紙面での交流などもさせていただきました。県の陸上記録会についても、それまで会場であった彦根が使えないということで甲賀市の陸上競技場に決定していましたが、熱中症やコロナのため、1回も開催できていません。来年度も、3種認定の改修工事のためできないということになりそうです。市の陸上記録会も9月下旬に予定していましたが、計画の最中にクラスター等が市内で発生しましたので、やはり危険を回避できないということで中止させていただきました。それに代わって各学校で記録を測定したものを持ち寄るというチャレンジランキング方式でランキングを付けましたが、子どもたちが一堂に会して、友だちの素晴らしいパフォーマンスを見るとか、競い合うということではできていません。運動会に関しては、ほとんどの小学校が本来予定していた土曜日、日曜日の中で、半日開催で種目を減らして実施しました。児童数が多い学校では、平日に学年ごと時間を分けるといった形で行っています。子どもたちの運動を制限することが多いのは事実ですが、色々な方からのご意見を聞きながら、「ここまではOK」といったラインを考えながら実施しています。ただ、従来のように、子どもたちの歓声が上がり、楽しくやっているというようなスポーツ場面は少ないというのが実態です。

委員 にこにこ園というのは幼稚園と保育園が一緒になったものです。私の園の場合、今年全体で80名ですが、50名くらいが4月、5月も共に過ごし、また6月から全員が集まるという状況でした。保育園や幼稚園の子どもにとって、運動遊びとそれ以外の遊びという区別はありません。小さな子どもが指先を使って何かを穴の中に入れることは指先の運動になりますし、5歳の一番大きい学年がドッジボールしたり、かけっこしたりすることも運動です。保育園では、子どもたちが使ったおもちゃはすべて毎日消毒しています。ボールも本の表紙も消毒し、子どもたちの健康に気をつけています。今まででしたら、一番広い遊戯室に集まって体操したり、一緒にダンスしたりしていましたが、学年と学年の交流は、今、避けており、窓も開けて風通しをよくして、1つの学年でその部屋を使うというようにしています。保育園でも運動会をどのようにするか、市とも話し合い、学年ごとに実施しました。今年度は、1時間で、1人の子どもに保護者2人と決め、私の園では場所も決めさせていただきました。初めての取り組みでしたので、実施前は保護者の方から「全部の学年のいつものにぎやかな運動会が見たい。」といった意見をいただきましたが、実施後のアンケートでは「じっくり自分の子どもを見られ、子どもたちも落ちついてできてよかった。」といったご意見をたくさんいただきました。今回コロナのため、今までとは違った見方ができるようになって、勉強させてもらったこともありますし、また、よかった部分については来年度も続けていきたいと思っています。

会長 ありがとうございます。それぞれのお立場でご苦労されているというお話をいただいています。今年度は本当にコロナに尽きるというような感じ。ドクターという立場から、アドバイスしていただけるようなことがありましたらお願いします。

委員 生々しいお声を聞かせていただき、ありがとうございます。皆さん、それぞれの立場でご苦労されていることを知り、共感しました。コロナは怖いと思いますが、それほど怖くないところと本当に怖いところがありますので、「正しく恐れる」ということが大事だと思います。同調圧力を感じるようなこともあり、過剰反応もあるかもしれません。

油断せず、正しく恐れることが大事です。三密を避ける、手を洗う、マスクをつける、距離をとる、換気をするなどの予防をしていれば、普通はうつりません。特に、子どもはほとんどうつりませんし、万が一うつっても重症化しません。データを見ると、50歳くらいまでの重症化はほとんどありません。50歳以上の方でも、症状がないか軽いことが多いです。子どもの場合、問題になるのは高齢者への家庭内感染ですので、そうしたことを知っておいてください。インフルエンザの場合、子どもはインフルエンザ脳症とって、時々重症になりますが、コロナの重症はほとんどありません。高齢者の場合、80歳以上では亡くなることもありますし、重症化することもあります。ただ、老人施設でのクラスターは多いですが、ほとんどの方は症状が軽いですし、90歳でも無症状の方もおられます。今、感染対策について悩んでおられるとお伺いしましたが、医師会、教育会、行政などでコンセンサスを決めるような場所はありますか。細かいルールを一つひとつ決めておくことで、ルールを守っているので大丈夫というようにできればと思います。事案ごとに関係者が具体的に細かいことを決めていけば、いいと思います。正しく恐れて、果敢に攻めていくというか、「やることはやる。」ということによいと思います。私事ですが、50人程度の方を集める報告会をしています。「このコロナの時期にどうしてそんなことをするのか。」という意見もいただきますが、一人ずつ席を空け、風通しをよくして、湿度も上げるようなことをして、実施しています。しっかりと対策をすれば怖くありませんし、そうした意見をいただいてもきちんと説明できます。そうして、みんなでコンセンサスを細かいことまで決めていただくといいかもしれません。ゼロリスクではないため、どんな対策をしても感染することはありますが、提案いたします。医師会に話をしておきますので、皆さんで細かいルールを話したらどうかというご提案です。もう一つですが、コロナのため、学校を休業した時期がありました。その後、7月、8月頃は、けがの子が非常に多かったです。特に、ひざの疲労骨折などが多かったです。大体1日数人来られていたと思います。こうしたことは、運動、スポーツを指導する方に、注意喚起するような場があればよいと思います。特に、家でじっとしていて急にスポーツとかする時は十分注意してほしいと思います。今は減ってきましたが、家で過ごした後で、急に運動したためだと思います。スポーツ推進計画を改めて見ていましたが、スポーツ傷害については、23ページに「スポーツ傷害の予防をはじめとした研修の充実」ということが書いています。また、17ページには、「指導者に対する講習会、研修会の実施ができていない。」という課題が挙がっています。スポーツは体だけでなく心にも良いので、進めたいのですが、裏の面として、けがとか故障とか傷害とかいったことがあります。特に発育期の子どもでは、腰椎の疲労骨折なども多いんです。疲労骨折を起こすと分離症になることがあり、分離症になると20代で手術といったことにもなりかねませんので、スポーツの傷害という悪い面も明確にしていただければよかったです。コロナを正しく恐れていただくことに加え、スポーツ指導者の方にこうしたことを認識していただきたいと思います。

会 長 ありがとうございます。スポーツの傷害の研修会については、スポーツ協会が実施している研修の中でも計画したいと思います。研修のほか、ウォーキングなどにも取り組み始めていますが、スポーツの指導者に各競技団体から来ていただきますので、そういうところから研修を始められればいいのではないかと思います。事業内容にどこか加え

られないでしょうか。

事務局 検討させていただきます。

会長 事業内容について、それぞれのお立場で進捗状況を含めて説明していただきました。今年とはとにかくコロナの中で、ご苦勞していただいているところをお話いただきましたが、見えてきたこともあったと思いますので、事務局で事業内容に加えていただきたいと思います。

委員 私は卓球をやっていますが、一障がいの有無にかかわらず、一緒に競技をしています。色々な障がいがありますが、卓球をする中で人間的なつながりができ、目的にもある共生社会の実現につなげていければと思います。そのためには、多くの方に参画いただく必要がありますので、知り合いがおられたら1人でも多く、声を掛けていただくといったことを書いていただきたいと思います。また、情報提供ですが、新聞によると、「障がい者スポーツ」という呼称を「パラスポーツ」という呼称に変えるということを3月の日障協の委員会で承認する見通しとのこと。まだ決まってはいるようですが、そうした情報が入れば、「パラスポーツ」という呼称に変えていただきたいと思います。

会長 たくさんのご意見をいただきましたが、計画に沿って、事業内容としてはこのような形で進めていくということで、それぞれのお立場でご指導いただきたいと思います。もし、このほかにございましたら事務局までお願いしたいと思います。その他、特にございませんでしょうか。

委員 国スポ・障スポについてですが、甲賀市も野球や障がい者スポーツの会場になります。甲賀市が盛り上がる良いチャンスだと思いますが、あまり触れていないような気がします。これを成功させ、障がい者スポーツをもっと盛り上げたり、スポーツの実践率をもっと上げたりすべきだと思います。何十年に1回というチャンスですので、みんなで盛り上げていくようなムードをつくることを入れていただきたいと思います。甲賀市は、障がい者スポーツに普段から取り組んでいただいております、県内でも有名ですので、もっと盛り上げていただいて、他市の見本になるような甲賀市になればと思います。

会長 大切なことだと思いますが、どこに加えたらいいですか。

委員 ページ数は25ページになりますが、各競技団体をはじめ、学校も総合型地域スポーツクラブもそうですが、機運の高めていくべきときですので、当然、市民に対してのアプローチはかかっています。その中で、どういう形で盛り上げていくかということですが、底辺のところでは総合型地域スポーツクラブとスポーツ推進委員が担っています。それ以外のところで競技団体に対しましては、スポーツ協会が担っていただいています。基本計画の見直しが必要であるかにつきましては、もう一度事務局でも検討いただいている形になると思います。また、10年前には想定していませんでしたが、感染症対策やスポーツにおける感染症、傷害といった項立てが必要だと思います。当時は想像もしていないような状態ですが、スポーツは絶対に必要なことですので、感染症などの疾病や傷害に対する文言を項目として入れていただくことを検討いただき、もう一度審議会に諮っていただく方が望ましいと思います。

会長 今日の会議はほとんどが感染症についてということになっており、これからも課題だと思います。計画については完成していますが、見直しが可能ですか。

事務局 計画を見直すのか、事業として加えるのか、どのような形でご意見を反映させていた

だくのかについては、検討させていただきたいと考えます。

会長 感染症と傷害のことを含めた指導者への研修といったことを前提として入れていただくといったところだと思います。たくさんご意見をいただきましたが、何か特にございましたらお願いします。

委員 国スポ・障スポについてですが、それを1つの起爆剤として、1つの競技をツールにしたまちおこしのようなことができたらと思います。「サッカーはこの町」とか、「野球はここ」というような成果を残したいというのが私の希望です。

会長 ホームページや庁舎の懸垂幕などを活用いただき、誘致などについて市民の皆さんにPRしていただければと思います。ありがとうございました。かなり時間も過ぎましたので特にないようでしたら、議事のほうはこれで終了いたします。よろしいでしょうか。それぞれのお立場でたくさんのご意見いただきました。本日いただいたご意見が反映されるように事務局で検討いただけるとと思いますので、よろしくをお願いします。

○閉会

以上